

ホソカワ欧州粉体工学シンポジウム 2014報告 Hosokawa European Powder Technology Symposium 2014

当財団の設立20周年記念特別事業の一環として、ホソカワ欧州粉体工学シンポジウム (Hosokawa European Powder Technology Symposium) 2014が、平成26年9月29日(月)に、ドイツのアウグスブルクにあるホソカワアルピネのカンファレンスセンターで開催された。本シンポジウムは当財団が主催する初めての海外でのシンポジウムで、開催に当たってはホソカワミクロン (HMC) とホソカワアルピネ (HAAG) の後援を得た。この海外でのシンポジウムは当初、平成25年度に開催の予定であったが、当財団や周囲の諸状況により平成26年度に延期されていたものである。

今回のシンポジウムは、「新しい機能性材料の創製にむけた粉体工学の動向」をテーマとして、右記のプログラムの通り実施された。はじめに、細川理事長の開会挨拶があり、その後、ドイツから3件、日本から1件の講演が行われた。そして最後にHAAGのKrieg社長の閉会挨拶で終了した。講演の内容は、粒子レベルでのデザインによる材料の高性能化や、特に医薬品に特化した粉体プロセスによる高機能化、また、数値シミュレーションの粉体プロセスへの応用、さらにIT技術を活用した遠隔粉体プロセス診断まで幅広い粉体工学・技術関連の新しい動向を紹介するものであった。また、ホソカワ粉体工学振興財団の活動を参加者に知ってもらうために、予稿集とパネルで、その歴史や主な事業について紹介を行った。

本会には当財団の細川理事長 (HMC現社長)、宮田副理事長 (HMC現会長)、日高常務理事 (同志社大学教授) ならびに事務局の横山が出席し、後援会社であるHAAGからはVogel会長、Krieg社長、研究開発関係のDr.Fernandez, Dr.Furchner, Dr.Sanderらが出席した。講師ならびにホソカワ関係者10名を含め、日・欧各国から全体で67名の参加があった。

翌日30日はニュルンベルクで開催されていた世界最大の粉体技術関連の国際展示会であるPowtech 2014の見学が企画され、HAAGからバスで会場に移動した後、ブースの案内、説明が行われた。この展示場は5つのホールからなり、800余りの企業や大学が出展し、粉体工学・技術に関する最新情報が展示されていた。これらの中で日本からの出展は数社に留まっていたが、ホソカワミクロングループは展示場で最大級のブースを展示していた。

○プログラム

Program of Hosokawa European Powder Technology Symposium

Welcome address

Y. Hosokawa, President of Hosokawa Powder Technology

(Session 1) Chairperson : Dr.B.Furchner, Hosokawa Alpine AG

Overview and Prospects of Powder Technology
Prof. W. Peukert, Erlangen University

Advancements, Challenges and Trends in Size Reduction

Pharmaceutical Applications,
Dr. M. Juhnke, Novartis AG, Basel

(Session 2) Chairperson : Dr.T.Yokoyama, Hosokawa Micron Corp.

Design of Powder Processing Equipment by Computer Simulation

Prof. J. Kano, Tohoku University

Computerization of Powder Processing Systems

Dr. S. Sander, G. Kiederle, Hosokawa Alpine AG

Closing remarks

P. Krieg, President of Hosokawa Alpine AG



講演会風景